



Quest[®]
Recovery Manager 7.10
for Active Directory



新機能

© 2009 Quest Software, Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

このガイドには、著作権で保護された専有情報が含まれています。このガイドで説明されているソフトウェアは、ソフトウェアライセンス契約または機密保持契約に基づいて提供されています。このソフトウェアは、該当する契約の条件に従った場合のみ使用またはコピーが許可されています。このガイドのいかなる部分も、写真複写や録音を含む電子的または機械的ないかなる形式または手段においても、購入者の個人的な使用以外の目的で、クエスト・ソフトウェア社の書面による許可なく複製または転送することはできません。

本書の使用の可能性に関するお問い合わせについては：

クエスト・ソフトウェア株式会社
〒102-0076

東京都千代田区五番町 10 番地
五番町 KU ビル 3F

www.quest.com/japan

電子メール：japansales@quest.com

商標

Quest、Quest Software、Quest Software ロゴ、Aelita、Akonix、Akonix、AppAssure、Benchmark Factory、Big Brother、ChangeAuditor、DataFactory、DeployDirector、ERDisk、Foglight、Funnel Web、GPOAdmin、I/Watch、Imceda、InLook、IntelliProfile、InTrust、Invertus、IT Dad、I/Watch、JClass、Jint、JProbe、LeccoTech、LiteSpeed、LiveReorg、MessageStats、NBSpool、NetBase、Npulse、NetPro、PassGo、PerformaSure、Quest Central、SharePlex、Sitrika、SmartAlarm、Spotlight、SQL LiteSpeed、SQL Navigator、SQL Watch、SQLab、Stat、StealthCollect、Tag and Follow、Toad、T.O.A.D.、Toad World、vAnalyzer、vAutomator、vControl、vConverter、vEssentials、vFoglight、vMigrator、vOptimizer Pro、vPackager、vRanger、vRanger Pro、vReplicator、vSpotlight、vToad、Vintela、Virtual DBA、VizionCore、Vizioncore vAutomation Suite、Vizioncore vEssentials、Xaffire、および XRT は、クエスト・ソフトウェア社の登録商標です。このガイドで使用されているその他の商標および登録商標は各社に帰属します。

免責事項

本書に含まれる情報は Quest 製品に関して提供されます。如何なる知的財産権に対する明示、黙示、禁反言またはその他のライセンスも本書により、または Quest 製品の販売に関連して付与されるものではありません。本製品のライセンス契約に明記された QUEST の契約条件に規定されたものを除き、QUEST はその製品に関連する如何なる責任も負うものではなく、また明示、黙示あるいは法定の保証を否認します。これには、商業性、特定用途への適合性、または権利の非侵害を含み、これらに限定されない黙示の保証が含まれます。QUEST はいかなる場合にも、本書の使用または使用の不能により生じる直接的、間接的、結果的、懲罰的、特殊のまたは付随的損害（利益の損失、業務の中断、情報の紛失を含み、これらに限定されない損害）に対して、かかる損害の可能性を通知されていた場合にも、責任を負いません。Quest は本書の内容の正確さや完全性に関して如何なる表明または保証を行うものではなく、また、仕様および製品説明を予告なく随時変更する権利を保有します。Quest は本書に含まれる情報を更新することを確約しません。

Recovery Manager for Active Directory - 新機能

更新日 - 2009 年 8 月 31 日

ソフトウェア バージョン - 7.10

目次




対象読者	5
表記規則	5
クエスト・ソフトウェアについて.....	6
クエスト・ソフトウェアの連絡先	6
カスタマーサポートの連絡先	6
RECOVERY MANAGER FOR ACTIVE DIRECTORY の新規機能 7.10	7
WINDOWS SERVER 2008 R2 のサポート	7
削除済みオブジェクトの管理の向上	7
特定の削除済みオブジェクトのさらに簡単になった検索および回復	7
MICROSOFT の ACTIVE DIRECTORY RECYCLE BIN 機能に基づいてタスクを実行...	8
親と一緒に削除済みオブジェクトを回復する	9
RECOVERY MANAGER FOR ACTIVE DIRECTORY 7.9 の新機能	10
AD オブジェクトを変更したユーザーのレポート作成	10
グラニューラ バックアップ保存期間ポリシー	10
削除済みオブジェクトの並べ替え、グループ化、フィルタリング	11
比較と復元操作の選択デフォルト方法の機能	11
インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6) のサポート.....	11
RECOVERY MANAGER FOR ACTIVE DIRECTORY 7.8 の新機能	12
WINDOWS SERVER 2008 のサポート.....	12
WINDOWS ADMINISTRATIVE TOOLS EXTENSION の改良点.....	12
MANAGEMENT SHELL の改良点.....	12
復元する ACTIVE DIRECTORY オブジェクトのフィルタ	13

対象読者

本書は、Recovery Manager for Active Directory について理解していただくための補助として作成されました。「新機能」には、Recovery Manager for Active Directory のインストールと使用に必要な情報が記載されています。この文書は製品を使用するネットワーク管理者、コンサルタント、アナリスト、そしてその他全ての IT プロフェッショナルの方々を対象としています。

表記規則

このガイドを最大限に活用していただくために、表記規則を具体的なフォーマットに作成しました。これらの規則は手順、アイコン、キー操作、およびクロス リファレンスに適用されます。

要素	表記規則
選択	ファイルやラジオ ボタンなどさまざまなインターフェイス要素の選択や強調表示といった動作を表します。
太字テキスト	メニューやコマンドなど、Quest Software 製品で使われるインターフェイス要素を表します。
斜体テキスト	コメントに使用されます。
太字斜体テキスト	強調するとき使用されます。
青色テキスト	相互参照を表します。Adobe® Reader® で表示するとき、この形式はハイパーリンクとして使用できます。
	記載されるプロセスに関連する追加情報の強調表示に使用します。
	ベスト プラクティス情報の提供に使用します。ベストプラクティスは最良の結果を出すための推奨される行動方針を詳しく説明するものです。
	実行に注意の必要なプロセスを強調表示するために使用します。
+	2 つのキー操作の間にプラスのマークがある場合は、それらを同時に押します。
,	要素の間に読点がある場合は、その特定のシーケンスで要素の選択を行う必要があります。

クエスト・ソフトウェアについて

クエスト・ソフトウェアは、貴社の既存のアプリケーション、データベース、および Windows インフラストラクチャからより高い性能と生産性を引き出す革新的な製品をお届けします。高可用性、監視、データベース管理、インフラ管理を目的としたクエスト製品により、基幹業務アプリケーションのパフォーマンスおよび稼働時間が向上し、IT 専門家はより少ないリソースでより多くの業務を達成できます。カリフォルニア州アーバインに本社を置クエスト・ソフトウェアは全世界に支社を持ち、世界中の 100,000 社を超えるお客様に支えられています。クエスト・ソフトウェアの詳細については、www.quest.com/japan をご覧ください。

クエスト・ソフトウェアの連絡先

電子メール：japansales@quest.com
住所：クエスト・ソフトウェア株式会社
〒102-0076
東京都千代田区五番町 10 番地
五番町 KU ビル 3F
Web サイト：www.quest.com/japan

カスタマーサポートの連絡先

Quest Software は、ワールドワイド・サポートを提供しておりますので、以下の連絡先からお問い合わせ頂くことが可能です。(ただし英語のみ)

SupportLink：www.quest.com/support
Email：support@quest.com

SupportLink では以下の操作を行って頂けます。

- サポートリクエストの作成、更新、閲覧
- ナレッジベースの検索
- FAQ へのアクセス
- パッチのダウンロード

尚、日本語でのお問い合わせは、下記電子メールアドレスをご使用ください。

Email：support@questsoftware.co.jp

Recovery Manager for Active Directory の新規機能 7.10

現行の調査と開発およびお客様のご意見により、Recovery Manager for Active Directory のこのバージョンは、Windows Server 2008 R2 に対応し、削除済みディレクトリ オブジェクトの管理が改善されました。次のセクションでは、これら新規機能について説明します。

Windows Server 2008 R2 のサポート

Recovery Manager のこのリリースでは、Windows オペレーティング システムの新しいバージョンである Windows Server 2008 R2 に完全対応しています。

Windows Server 2008 R2 のサポートにより、

- Windows Server 2008 R2 の任意のバージョンを実行しているコンピュータに Recovery Manager をインストールして使用できます。
- 機能レベルが Windows Server 2008 R2 であるドメインまたはフォレストの Active Directory データをバックアップおよび復元できます。
- Windows Server 2008 R2 に同梱されている Active Directory バージョンの新規機能の Microsoft の Active Directory Recycle Bin により、多数のタスクを実行できるようになりました。詳しくは、[「Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能に基づいてタスクを実行」- 8 ページ](#) を参照してください。

削除済みオブジェクトの管理の向上

Recovery Manager のこのバージョンでは、強化された削除済みディレクトリ オブジェクトの管理を提供しています。それにより以下が可能になります。

- Recovery Manager が提供した**削除済みオブジェクト** コンテナの特定のオブジェクトの簡単な検索および復元を実現。
- Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能に基づいて多数のタスクを実行。
- 親と一緒に削除済みオブジェクトを回復する。

特定の削除済みオブジェクトのさらに簡単になった検索および回復

Recovery Manager で特定の削除済みオブジェクトを検索および回復するには、Recovery Manager コンピュータの Recovery Manager コンソールと Active Directory ユーザーおよびコンピュータ ツール (ADUC) に表示される各ドメインに対して提供されている**削除済みオブジェクト** コンテナを使用することができます。利用するコンテナの場所 (Recovery Manager コンソールまたは ADUC) に関係なく、特定のオブジェクトを検索および選択して復活させる、または Recovery Manager で作成したバックアップからそれらを復元するための統一機能を提供します。

削除済みオブジェクト コンテナに実装されている新規機能により、さらに簡単にドメインの特定の削除済みオブジェクトを検索できるようになりました。**削除済みオブジェクト** コンテナの内容を表示する場合に、Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能を有効にすると、名前、タイプ、削除日、および廃棄 (tombstone) の有効期間、または削除済みオブジェクトの有効期間などの条件で、オブジェクトの並べ替え、グループ化、またはフィルタを行うのに、Recovery Manager コンソールと ADUC を使用することができます。

削除済みオブジェクト コンテナの内容を表示する場合に、名前、タイプ、削除データ、寿命の終了時（Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能を有効になっている Windows Server 2008 R2 環境で、オブジェクトが削除された場合のオブジェクトの廃棄（tombstone）の寿命終了時、またはオブジェクトの削除済みオブジェクトの寿命終了時）などの条件で、オブジェクトの並べ替え、グループ化、またはフィルタを Recovery Manager コンソールと ADUC を使用して行うことができますようになりました。

削除済みオブジェクト コンテナの内容を、階層または一覧表示のいずれかの表示方法が選択できるようになりました。

階層表示では、削除済みオブジェクトとコンテナ（組織単位または OU）、および削除済みオブジェクトが含まれている既存のコンテナを表示します。この表示には、各削除済みオブジェクトが、削除直前の状態組織構造のレベルで表示されます。階層表示を使用中に、特定の削除済みオブジェクトを選択して回復するか、そのコンテナの【**削除したオブジェクトを回復**】コマンドを実行して、一度に特定の既存のコンテナのすべての削除済みアイテムを回復することができます。

一覧表示は、**削除済みオブジェクト** コンテナの内容を、削除済みオブジェクトの一覧として表示します。この表示では、既存のコンテナを非表示にし、バックアップから復活または復元する必要がある削除済みアイテムに焦点を合わせることができます。

Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能に基づいてタスクを実行

Windows Server 2008 R2 オペレーティング システムに同梱されている Active Directory バージョンには、新規機能の Microsoft の Active Directory Recycle Bin が追加されました。Recovery Manager に統合されたこの Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能は、次の通りです。

- 削除済みオブジェクトを選択して削除を取り消す。
- 削除済みオブジェクトの状態を「リサイクル」に転送。
- ドメインのリサイクル オブジェクトのリストを表示する。

フォレストで有効になっている場合、Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能は、削除済みオブジェクトの寿命のサイクルを次のように明確に変更します。ディレクトリ オブジェクトを削除すると、次の段階的な状態になります。

- 状態 1: 削除済み
- 状態 2: リサイクル

削除時のオブジェクトの状態は「削除済み」に変わり、Recovery Manager が提供する **削除済みオブジェクト** コンテナにそのオブジェクトが表示されます。但し、削除済みオブジェクトは、削除時に存在したその属性、リンク、およびグループ メンバーすべてを維持します（各削除済みオブジェクトがその属性の一部しか維持しない pre-Windows Server 2008 R2 バージョンの Active Directory とは異なります）。オブジェクトは、**削除済みオブジェクトの寿命**と呼ばれる指定された構成可能な期間の間「削除済み」の状態のままです。適用可能な削除済みオブジェクトの寿命が過ぎると、オブジェクトは次の段階「リサイクル」に移動されます。

オブジェクトが「削除済み」状態にある場合は、Recovery Manager が提供する **削除済みオブジェクト** コンテナを使用して、削除直前に存在したその属性、リンク、およびグループ メンバーシップすべてと一緒にオブジェクトを復活することができます。または、Recovery Manager で作成したバックアップから特定のバックアップ状態に復元することができます。

Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能が有効の環境で、Recovery Manager を使用して適用可能な削除済みオブジェクトの寿命の設定を無効にして、Microsoft の Active Directory Recycle Bin 機能が有効になっている Active Directory 環境で、削除済みオブジェクトの状態を「削除済み」から「リサイクル」に手動で変更することができます。

削除済みオブジェクトが「リサイクル」に移動されると、オブジェクトの属性のほとんどは削除（はぎとり）され、オブジェクトには、フォレストの他のドメイン コントローラにオブジェクトの新しい状態を複製するのに必要ないくつかの属性のみが維持されます。オブジェクトは、*削除済みオブジェクトの寿命*と呼ばれる指定した構成可能な期間の間「リサイクル」の状態になります。Recovery Manager が提供する**削除済みオブジェクト**コンテナを使用することができます。

親と一緒に削除済みオブジェクトを回復する

この Recovery Manager の新規機能によって、その親コンテナも削除されたとしても、削除済み Active Directory オブジェクトを回復できるようになりました。オブジェクトなどの回復時に、Recovery Manager は、オブジェクトの LastKnownParent 属性の値を取得してそのオブジェクトの最後に分かっている親を識別します。最後に分かっている親が削除された場合は、Recovery Manager は、その親と一緒に削除済みオブジェクトを回復します。

Recovery Manager for Active Directory 7.9 の新機能

進行中の研究開発の結果およびお客様のフィードバックに対応して、この Recovery Manager for Active Directory のバージョンには、以下のサブセクションに記載されている新機能が搭載されています。

AD オブジェクトを変更したユーザーのレポート作成

Active Directory オブジェクトの Recovery Manager の比較レポートに、レポートするオブジェクトの変更者（ユーザーアカウント）の情報を含むことができるようになりました。この機能は、Active Directory の重大な変更について、リアルタイムかつネイティブ監査の経費をかけずに、事前に追跡、監査、レポート、および警告することができる、賞を受賞した Quest 製品 ChangeAuditor for Active Directory で提供される監査機能に基づいています。

この新しい機能からメリットを受けるには、Recovery Manager が ChangeAuditor に統合して変更者の情報を取得できるように、Recovery Manager のホーム フォレストに ChangeAuditor をインストールする必要があります。

この機能の使用方法と、Recovery Manager が統合できる ChangeAuditor のバージョンに関する詳細は、このリリースに付属されている「ユーザーガイド」を参照してください。

ChangeAuditor for Active Directory に関しては、Quest Software 社の Web サイト (www.quest.com) を参照してください。

グラニューラ バックアップ保存期間ポリシー

バックアップ保存期間ポリシーでは、コンピュータ コレクションのバックアップ リポジトリ（またはストレージ）に保存するバックアップの最大数を指定することができます。保存期間ポリシーで指定する数以外の古いバックアップは、新しいバックアップの領域を空けるために永久に削除されます。

Recovery Manager の旧バージョンでは、Recovery Manager コンピュータ、バックアップ ドメイン コントローラ、またはこれらコンピュータからアクセスできるネットワーク共有を含むすべての Recovery Manager バックアップ リポジトリに対して 1 つの保存期間ポリシーしか設定することができませんでした。この新しいリリースでは、コンピュータ コレクションプロパティを使用して、以下のリポジトリのそれぞれに個々のバックアップ保存期間ポリシーを設定できるようになりました。

- **[Recovery Manager コンピュータのリポジトリ]**。このリポジトリはコンソール ストレージと呼ばれており、Recovery Manager コンピュータと、そのコンピュータからアクセスできるネットワーク共有を含んでいます。
- **[ドメイン コントローラのリポジトリ]**。このリポジトリは DC ストレージと呼ばれており、バックアップ ドメイン コントローラと、それらのドメイン コントローラからアクセスできるネットワーク共有を含んでいます。

削除済みオブジェクトの並べ替え、グループ化、フィルタリング

Recovery Manager コンピュータで Active Directory ユーザーおよびコンピュータ (ADUC) ツールを使用して、削除済みオブジェクトの表示や再表示をする場合に、複数の条件によるオブジェクトの並べ替え、グループ化、フィルタリングを使用することで簡単に行うことができるようになりました。この新しい機能によって、ADUC の Recovery Manager によって提供される **削除済みオブジェクト** コンテナに保存されている多数の削除済みオブジェクトから特定の削除済みオブジェクトを検索して再表示することが簡単にできるようになりました。

例えば、削除済みオブジェクトの名前、削除した日付、破棄有効期間の終了日、オブジェクトタイプ、または GUID で削除済みオブジェクトを並べ替えたり、グループ化したり、フィルタすることができます。

比較と復元操作の選択デフォルト方法の機能

Recovery Manager の設定の拡張により、オンライン復元ウィザードで実行する比較と復元操作の希望するデフォルト方法を設定することができるようになりました。エージェントレス方法またはエージェントベース方法のいずれかを選択することができます。オンライン復元ウィザードを使用する場合に、Recovery Manager 設定のデフォルト方法をいつでも変更することができます。

これら各方法の長所と短所に関する詳細情報は、このリリースに付属されている「**ユーザーガイド**」を参照してください。

インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6) のサポート

Recovery Manager のこのリリースでは、インターネット プロトコルの最も安全な最新のバージョン IPv6 を完全サポートしています。IPv6 は Windows Server 2008 または Windows Vista オペレーティング システムを実行しているドメイン コントローラにインストールされており、デフォルトでは有効にされている、新しいより安全なインターネット プロトコルです。これにより、Recovery Manager は IPv4 および IPv6 の混合環境とネイティブ IPv6 環境の両方で同じようにスムーズに実行します。

Recovery Manager for Active Directory 7.8 の新機能

進行中の研究開発の結果およびお客様のフィードバックに対応して、この Recovery Manager for Active Directory のバージョンには、以下のサブセクションに記載されている新機能が搭載されています。

Windows Server 2008 のサポート

Recovery Manager が、Windows Server 2008 の 32 ビットまたは 64 ビットバージョンを実行しているコンピュータにインストールして使用できます。Windows Server 2008 に付属されている Active Directory バージョンも完全サポートしています。Recovery Manager を使用して Microsoft Windows 2008 Active Directory にあるオブジェクトを管理することができます。

Recovery Manager の新規リリースで実行されている Support for Windows Server 2008 機能は、Recovery Manager バージョン 7.7、と比較してオプションが拡大され、Windows Server 2008 ベースのドメイン コントローラで Windows ファイアウォールを自動的に設定できます。この新規オプションが有効になると、ターゲット Windows Server 2008 ベースのドメイン コントローラで一連の Windows ファイアウォール 設定を自動設定し、バックアップ エージェントのトラフィックを有効にして、時間を節約すると共に、悪意のあるアプリケーションからハイレベルに保護します。

Windows Administrative Tools Extension の改良点

Active Directory ユーザーとコンピュータ (ADUC) ツールから Active Directory オブジェクトのバックアップ、復元、比較を行うときに、復元、バックアップまたは比較操作を通じて段階的に指示を行うウィザードが表示されます。

復元ウィザード、バックアップ ウィザード、比較ウィザードは、ADUC ツールからアクセスでき、優れたユーザー体験を提供する傍ら、以下のことが実行できます。

- 操作状況の復元、バックアップ、比較を表示します。
- ターゲット ドメイン コントローラを使用する方法を選択：エージェント メソッドかエージェントレスメソッド。
- 復元または比較する子オブジェクトタイプを指定します。
- Recovery Manager で作成されたパスワードで保護された Active Directory バックアップにアクセスします。
- 操作結果のレポートを生成し、変更されない Active Directory オブジェクトおよび / またはオブジェクト属性の情報をレポートに含めるかどうかを選択することができます。

Management Shell の改良点

Recovery Manager Management Shell 機能は、Microsoft Windows PowerShell テクノロジーに基づき構築され、既存のコマンドライン ツール (cmdlets) のパラメータをさらに含めるように改良されました。Cmdlet ヘルプも更新されて、新規パラメータの追加が反映されています。Management Shell に関する情報及び Management Shell cmdlets のヘルプの取得方法につきましては、Recovery Manager for Active Directory のこのリリースに付属されている「ユーザーガイド」を参照してください。

復元する Active Directory オブジェクトのフィルタ

オンライン復元操作のオブジェクトの選択がさらに容易になりました。バックアップ状況が Active Directory の状況と異なるオブジェクトのリストが表示される時、そのリストにフィルタを適用することができます。どのオブジェクトを選択して表示するかにより、リストには、削除済みオブジェクトのみ、変更済みオブジェクトのみ、および削除済みと変更済みのオブジェクトが含まれます。